参考資料４

久保川イーハトーブ自然再生事業

長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業

実　施　計　画

平成２２年５月

久保川イーハトーブ自然再生協議会

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第１章　対象地区の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

１－１　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」対象位置図　・・・・・・・・・・・　2

１－２　対象地区の自然環境の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

第２章　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」の実施体制　・・・・・・・・・・・　4

２－１　実施者の名称および住所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

２－２　実施者の属する協議会の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

第３章　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」の内容　・・・・・・・・・・　5

３－１　事業の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３－２　事業の実施方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３－３　事業の実施手法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３－３－１　事前調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３－３－２　再生目標と方法の策定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３－３－３　管理の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

３－３－４　モニタリング　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

３－４　期待される効果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

第４章　役割分担　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

第５章　付録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

５－１　本実施計画の作成に参加した人の名簿　・・・・・・・・・・・・・・・　9

５－２　予備的な調査で確認された植物リスト　・・・・・・・・・・・・・・・　9

はじめに

「久保川イーハトーブ自然再生事業」は、岩手県南部・磐井丘陵帯の久保川の羽根橋より上流側、立石地区までの流域（支流栃倉川流域を含む）の里地里山を対象として、そこに残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価するとともに、生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的モニタリングと検討に基づき、ていねいに取り除くことで、積極的に生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを目標として実施する自然再生事業である（久保川イーハトーブ自然再生事業全体構想 2009 年 5 月、以下「全体構想」より）。その一環である「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」は、管理放棄にともない生物多様性の著しい低下が認められる樹林地を対象に、科学的知見に基づく植生管理を多様な主体が参加する自然環境学習の実践として行うことにより、生物多様性の回復を図り、同時に自然環境やナチュラルヒストリー（自然誌）の学習の場として整備する。

対象とする長倉地区の樹林は、宗教法人知勝院が買い入れた私有地である。この範囲内の一部には、カタクリ、キクザキイチゲ、アケボノソウ、タチガシワなどさまざまな在来の林床植物が生育する落葉広葉樹林も存在する。しかし、大部分は、かつては外来牧草が優占する放牧地・牧草地の放棄跡地、高密度化したスギ人工林、管理放棄されササ類が林床を覆った落葉広葉樹林など、植生の単純化が目立つ。全体構想では、目標の一つとして、「劣化しつつある地域に、かつて存在した在来種から構成される生態系を再生させ、自然環境学習の場として役立たせる」ことを掲げている。この目標に照らせば、これらの場所は、適切な管理を行うことにより生物多様性の回復を図るべき場所と判断できる。

本事業では、事業地の近隣において知勝院が生物多様性の回復を重視して植生管理を行っている「曲渕自然観察林」と「クラムボン広場」での取り組みを、先行事例として重視し、これらの場所の植生を保全生態学的観点から評価するとともに、その結果を参考にして長倉地区の条件にあった再生目標を設定する。そして、目標自体を順応的に見直しつつ、久保川イーハトーブ自然再生協議会参加者、知勝院関係の研修参加者、NPO 法人北上川流域連携交流会をはじめとする地域の多様な主体や都市住民を含む地域外の住民の参加により、植生の再生を進める。その過程においても、自然環境学習の機会を提供すべく、参加型モニタリングなどのプログラムを検討する。事業の効果は科学的なモニタリングを通して検証し、順応的管理に反映させる。

第１章　対象地区の概要

1-1　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」対象位置図

事業対象となる長倉地区の樹林は、久保川に隣接する場所に位置する広さ 18ha の山林である（図１）。地域内の地形は起伏に富み、尾根、斜面、渓流沿いなどの多様な環境を内包する。

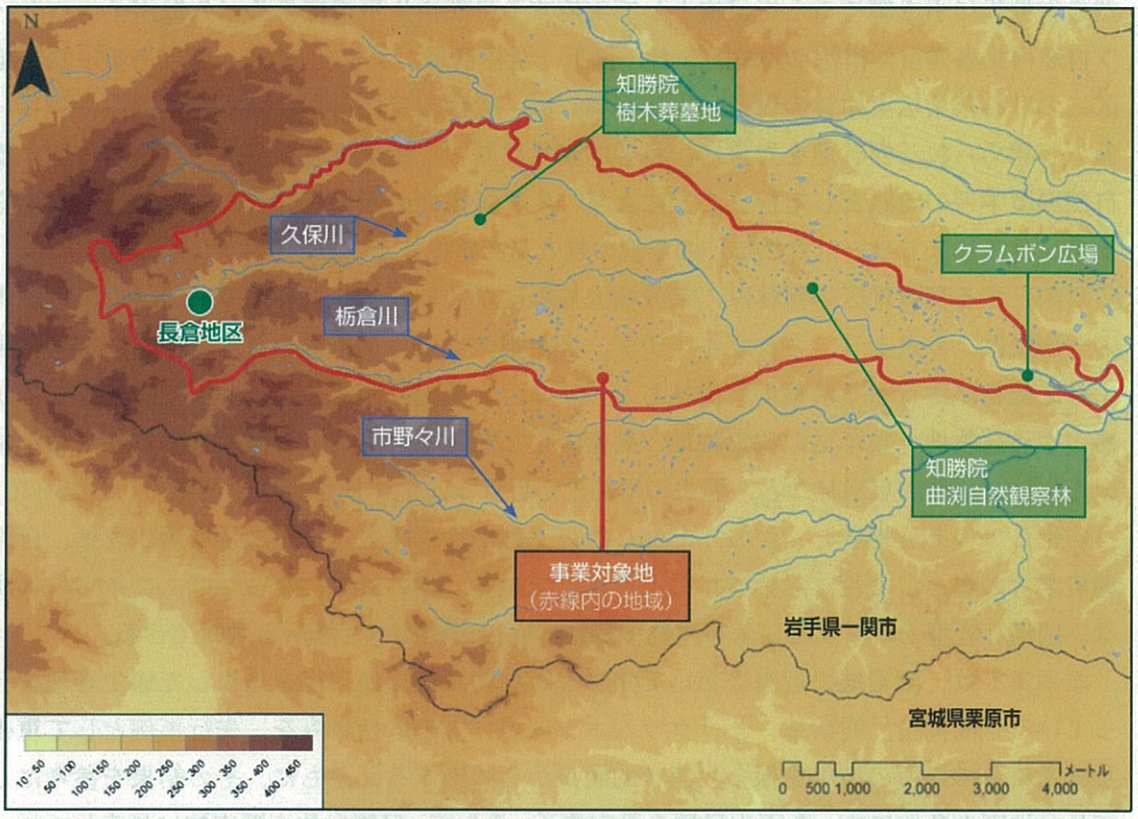

図１．久保川イーハトーブ自然再生事業の対象範囲と当該事業の対象地区の位置.

1-2　対象地区の自然環境の概要

当該事業の対象地区を含む一帯では、かつては傾斜地に発達する落葉広葉樹林が雑木林として、炭焼きや、近年ではシイタケ栽培に利用されてきた。拡大造林が全国的に進められる中、この地域では雑木林が生活に必要なものであったため、大規模な人工林化はあまり進められなかった。しかし、生活様式・農業形態の変化とともに管理が放棄される雑木林が増え、それらの場所では樹木やササ類の密度が高くなり、林床植物の多様性が失われた。また、小規模ながらスギの植林がおこなわれた場所や、放牧地・牧草地として開墾された場所も存在し、これらの場所の多くでも管理が放棄されている。

当該事業の範囲内にも、落葉広葉樹から構成されるものの樹木密度が高く林床が暗い斜

面林（写真 1-2-1）、林床にササ類が密生した落葉広葉樹林（写真 1-2-2）、放牧地が放棄され外来牧草が混生するササ原になった場所（写真1-2-3）、林床が暗いスギ植林地（写真1-2-4）が存在する。

東京大学農学生命科学研究科保全生態学研究室が対象地区内の合計900m²を対象に2009年5月と9月に行った予備的な植生調査では、172種の維管束植物が確認され（付録参照）、うち外来植物は4種のみであり、在来種の中には全国版レッドリスト絶滅危惧II類であるナツエビネや、岩手県レッドデータブック掲載種のタチガシワ（写真1-2-5）のように、保全上重要な種が含まれていた。しかし、これら保全上重要な種の個体数は1～数個体であった。また、開花がみられない草本・低木も多く認められた。これらの種については、光環境の改善や外来植物の排除などの適切な植生管理によって、個体群回復や健全な種子繁殖の促進が期待できる。また、過去の林床植生を構成していた植物が、土壌シードバンクや地下茎として残存していることも期待でき、それらの種は、間伐・枝打ち・下草刈り等による光環境の改善、落ち葉掻き等の攪乱、外来植物の排除を行うことで、再生できる可能性がある。

植生が単純化した場所での適切な管理については、知勝院を中心とする活動により、樹木葬墓地、曲渕自然観察林、クラムボン広場においてすでに成果が得られている。本事業の実施にあたっては、これらの先行事業での経験や成果の科学的モニタリング結果が活用できる。

写真 1-2-1　樹木密度の高い斜面林

写真 1-2-2　林床に笹が密生し、落ち葉が厚く積もったコナラ林

写真 1-2-3　ササ類が密生した放牧地跡地

写真 1-2-4　スギ植林地

写真 1-2-5　長倉地区樹林林縁に
生育するタチガシワ

第２章　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」の実施体制

2-1　実施者の名称および住所

久保川イーハトーブ自然再生研究所（代表：千坂嶂峰）が、宗教法人知勝院および東京大学農学生命科学研究科保全生態学研究室、NPO 法人北上川流域連携交流会、NPO 法人水環境ネット東北、樹木葬・里山保全の会、久保川イーハトーブ自然再生協議会参加者、および里山管理・自然再生に関する研修への参加者の協力のもとに実施する。

実施者の名称：久保川イーハトーブ自然再生研究所
実施者の住所：岩手県一関市萩荘字栃倉７３－１９３

2-2　実施者の属する協議会の名称

久保川イーハトーブ自然再生協議会

第３章　「長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業」の内容

3-1　事業の目的

本実施計画の目的は以下の３つである。これらは自然再生全体構想における目標設定に合致するものである。

（１）管理放棄されている樹林地および草地において立地条件に適した管理を行い、地域在来の生物多様性の回復を図る。
（２）植生管理作業やモニタリングを多様な主体が参加できる方法で進め、自然環境学習の機会を提供する。
（３）落葉広葉樹林の管理と生物多様性モニタリングについて、地域に適した手法を、実践を通して確立する。

3-2　事業の実施方針

事業は計画、実施、モニタリング、評価に基づく改善の全段階を通して、多様な主体の参画を通した自然環境学習効果を重視して行う。そのため事業実施の中心となる久保川イーハトーブ自然再生研究所および知勝院と、科学的側面からの協力を担当する東京大学保全生態学研究室とが連絡を密にとり、自然環境学習効果の高い実施プログラムを検討するとともに、情報公開の促進・広報に努める。ただし、盗掘・乱獲の対象となりうる絶滅危惧種・希少種の分布情報については、情報公開の範囲を限定するなどの配慮を十分に行う。

3-3　事業の実施手法

3-3-1　事前調査

事前調査は、対象地となる長倉地区での調査と、再生目標の策定における参考とする知勝院曲渕自然観察林およびクラムボン広場（図１参照）での調査から構成される。曲渕自然観察林は管理放棄された落葉広葉樹林における管理、クラムボン広場はスギ人工林における管理の先行事例として位置付ける（写真 3-3-1）。

それぞれの場所において、植生・植物相および昆虫相が適切に把握できる調査を、久保川イーハトーブ自然再生研究所と東京大学保全生態学研究室が協力して実施する。なお事前調査は、2009 年から両団体が着手している。

3-3-2　再生目標と方法の策定

事前調査の結果と、対象地域内の立地条件（尾根、斜面、渓流沿い等）、その場所の来歴についての情報を総合し、再生目標と管理方法を策定する。再生目標と方法はモニタリングの結果を踏まえて順応的に変更することとするが、当面は以下のような方針で進める。なお、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）の特定

外来生物に指定されている生物が認められた場合には、法に準拠する手続き・方法による排除を行う。

①放牧地跡

在来種の多様性の高い落葉広葉樹林を再生させることを目標とする。カモガヤやナガハグサなど外来牧草種が残存しているため、これらを積極的に排除する。排除の方法は人力による抜き取りや鎌・草刈り機による開花前の刈り払いを基本とする。また在来種の多様性を低下させる可能性がある競争力の高い在来種、すなわちつる植物やハイイヌツゲなどの繁茂にも留意し、適宜抑制管理を行う。木本がきわめて少ないため、周辺からの散布された種子の定着促進（地掻きなど）や周辺からの移植などの措置を検討する。

②落葉広葉樹密度の高い斜面林

林床植物の多様性の高い樹林を再生させることを目標とする。特に渓流沿いなどの湿潤な条件の場所では、ミスミソウ、キクザキイチゲ、カタクリなどの春植物の個体群回復を重視する（写真 3-3-2）。間伐、高木の枝打ち、高密度化したササ類の刈り払い、厚く堆積したリターの除去などの手法を検討する。大幅な改変により外来種や競争力の強い在来種が侵入しないように、植生管理の規模や方法に留意する。

③スギ植林地

林床植物の多様性の回復、低木・亜高木層の木本の開花の促進を目標とする。スギの間伐、地掻きなどの措置を検討する。植林地内にも希少種が生育する場合があるため、伐採する場所や、伐採した樹木の搬出方法・経路を詳細に検討する。

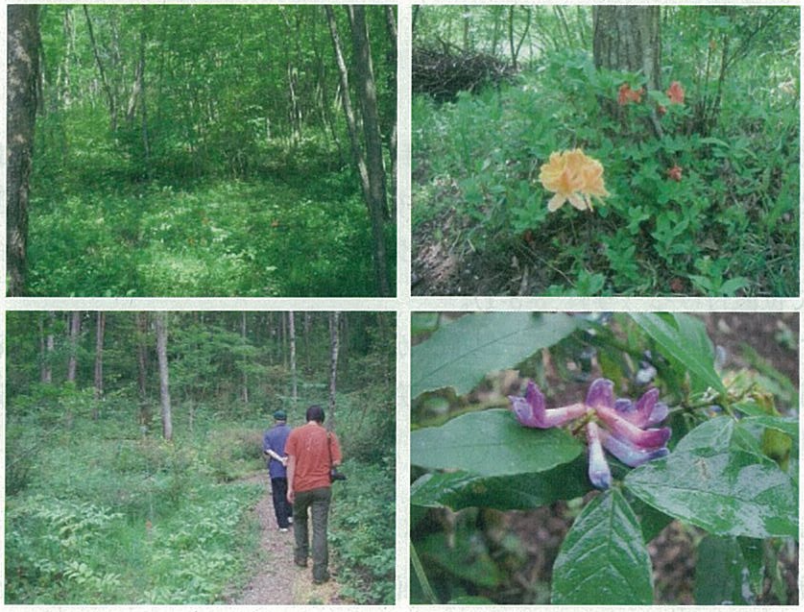

写真 3-3-1　管理目標設定の参考とする先行事例。知勝院自然観察林（左上）とその林床に咲くレンゲツツジとヤマツツジ（右上）、クラムボン広場（左下）とその渓流沿いに咲くツガルフジ（右下）。

写真 3-3-2　長倉地区対象地内の一部に生育するカタクリ（左）とキクザキイチゲ（右）。適切な管理によりこのような植物が増えることが期待される。

3-3-3　管理の実施

外来種の抜き取り、草刈り、地掻きなどの管理作業は、自然環境学習としての効果を重視し、知勝院関係者の研修、地域住民や小学生などを対象とした観察会、都市住民との交流事業などの機会を活用して行う。また、行政の広報やマスコミを通じて広く呼び掛けることなども検討する。

写真 3-3-3　研修会でハイイヌツゲの駆除をする

3-3-4　モニタリング

植生管理の効果を検証、評価し、管理方法を順応的に改善するためのモニタリングを実施する。モニタリングは以下の方針で実施する。

①全体構想の目標および本実施計画の目的の達成状況を測るため、管理を行った樹林の植生と昆虫相を事前から事後にかけて調査、解析する。当面の管理効果を踏まえて、適宜、モニタリング項目の追加や見直しを行い、順応的管理によって目標および目的の達成を図る。

②ニホンミツバチを活用した虫媒植物と花粉媒介昆虫の生物間相互作用のモニタリングなど、新しい評価手法の開発を進める。

③モニタリング調査の一部を兼ねた観察会を実施するなど、自然環境学習プログラムの機会として活用することを検討する。
④モニタリング結果は、逐次自然再生協議会で報告し、事業内容についての協議に活用する。
⑤モニタリング結果の重要な部分については、広報紙やホームページなどで一般に公開する。また学術的知見に関しては、学術論文などに論文として発表することを検討する。ただし、盗掘・乱獲の対象となりうる絶滅危惧種・希少種の分布情報については、情報公開の範囲を限定するなどの配慮を十分に行う。

3-4　期待される効果

本事業からは以下の効果が期待できる。
①落葉広葉樹林の生物多様性の再生にむけて
管理放棄されていた場所において適切な管理を再開することで、落葉広葉樹林の林床植物やそのような環境を生息場所とする昆虫などの生物個体群の回復が期待できる。尾根、斜面、渓流沿いなど多様な森林が一体として再生されることで、生物多様性の豊かな里山環境が再生することが期待される。
②人と自然のかかわりの再構築にむけて
在来種の豊かな森林の魅力と価値が地域に浸透し、樹林の恵みを享受しつつ保全する活動が地域の他の場所で展開されることが期待できる。全国的に急速に失われつつある里山環境は、自然環境学習やエコツアーの場として活用され、地域のみならず、都市住民など地域外からの人も訪れるようになることで、里山環境の価値の再認識や地域との交流も生まれ、生物多様性に富んだ農村集落の健やかな発展と維持に寄与することにつながることが期待される。

第４章　役割分担

主体	植生管理	調査研究	モニタリング	普及啓発	連絡広報
久保川イーハトーブ自然再生研究所	○	○	○	○	○
知勝院	○		○	○	○
東京大学保全生態学研究室		○	○	○	
NPO 法人北上川流域連携交流会		○	○	○	○
樹木葬・里山保全の会	○			○	
一関市市民環境部					○

第5章　付録

5-1　本実施計画の作成に参加した人の名簿

千坂　嶂峰　　久保川イーハトーブ自然再生研究所
千葉　喜彦　　NPO 法人北上川流域連携交流会
須田　真一　　久保川イーハトーブ自然再生研究所・東京大学農学生命科学研究科保全生態学研究室
鷲谷いづみ　　東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室
西廣　　淳　　東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室
大谷　雅人　　東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室

5-2　予備的な調査で確認された植物リスト

事業対象地となる長倉地区で確認された植物リスト（暫定版）.
放牧地跡のササ原、スギ植林地、斜面の落葉広葉樹林のそれぞれにおいて、10m×30m の範囲内の出現種を 2009 年 5 月と 9 月に調査した。

科名	種名	学名	外来	ササ原	スギ植林地	落葉樹林
キク科	オクモミジハグマ	*Ainsliaea acerifolia* var. *subapoda*			○	
キク科	ヨモギ	*Artemisia princeps*		○		○
キク科	シロヨメナ	*Aster ageratoides* var. *ageratoides*				○
キク科	ユウガギク	*Aster iinumae*		○		
キク科	シラヤマギク	*Aster scaber*			○	
キク科	ウスゲタマブキ	*Cacalia farfaraefolia*				○
キク科	ガンクビソウ	*Carpesium divaricatum*				○
キク科	ハルジオン	*Erigeron philadelphicus*	x	○		○
キク科	ヒヨドリバナ	*Eupatorium makinoi* var. *oppositifolium*			○	○
キク科	ニガナ	*Ixeris dentata*		○		
キク科	フキ	*Petasites japonicus*		○		○
キク科	ヒメジョオン	*Stenactis annuus*	x	○		○
キク科	オニタビラコ	*Youngia japonica*				○
オミナエシ科	オトコエシ	*Patrinia villosa*				○
スイカズラ科	ウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glabra*			○	○
スイカズラ科	ミヤマウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glandulosa*			○	
スイカズラ科	ニワトコ	*Sambucus racemosa* subsp. *sieboldiana*		○	○	○
スイカズラ科	ガマズミ	*Viburnum dilatatum*			○	○
スイカズラ科	ヤブデマリ	*Viburnum plicatum* var. *tomentosum*			○	○
スイカズラ科	ミヤマガマズミ	*Viburnum wrightii*			○	
スイカズラ科	タニウツギ	*Weigela hortensis*			○	
アカネ科	オオバノヤエムグラ	*Galium pseudo-asprellum*				○
アカネ科	ヨツバムグラ	*Galium trachyspermum*				○
アカネ科	オククルマムグラ	*Galium trifloriforme* var. *trifloriforme*		○		○
アカネ科	ヘクソカズラ	*Paederia scandens*			○	○

アカネ科	アカネ	*Rubia argyi*			○
ゴマノハグサ科	サギゴケ	*Mazus miquelii*	○		
ゴマノハグサ科	ミゾホオズキ	*Mimulus nepalensis* var. *japonicus*			○
シソ科	トウバナ	*Clinopodium gracile*			○
シソ科	カキドオシ	*Glechoma hederacea* subsp. *grandis*	○		
シソ科	ラショウモンカズラ	*Meehania urticifolia*		○	
シソ科	カメバヒキオコシ	*Rabdosia umbrosa* var. *leucantha*			○
シソ科	ニガクサ	*Teucrium japonicum*	○		○
クマツヅラ科	ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica*		○	
クマツヅラ科	クサギ	*Clerodendrum trichotomum*		○	○
クマツヅラ科	ハエドクソウ	*Phryma leptostachya* var. *asiatica*		○	
ナス科	イガホオズキ	*Physaliastrum japonicum*			○
ガガイモ科	タチガシワ	*Cynanchum magnificum*			○
ガガイモ科	オオカモメヅル	*Tylophora aristolochioides*		○	○
リンドウ科	フデリンドウ	*Gentiana zollingeri*		○	
リンドウ科	アケボノソウ	*Swertia bimaculata*	○		○
セリ科	セントウソウ	*Chamaele decumbens*			○
セリ科	ミツバ	*Cryptotaenia japonica*			○
セリ科	セリ	*Oenanthe javanica*			○
セリ科	ヤブニンジン	*Osmorhiza aristata*	○		○
セリ科	ウマノミツバ	*Sanicula chinensis*			○
セリ科	ヤブジラミ	*Torilis japonica*			○
ウコギ科	コシアブラ	*Acanthopanax sciadophylloides*		○	
ウコギ科	タラノキ	*Aralia elata*			○
ウコギ科	ハリギリ	*Kalopanax pictus*		○	
ツリフネソウ科	ツリフネソウ	*Impatiens textori*	○		
フウロソウ科	ゲンノショウコ	*Geranium nepalense* subsp. *thunbergii*	○		○
ミカン科	サンショウ	*Zanthoxylum piperitum*		○	
ウルシ科	ヤマウルシ	*Rhus trichocarpa*		○	
カエデ科	イタヤカエデ	*Acer mono* var. *marmoratum* f. *dissectum*	○	○	○
カエデ科	イロハモミジ	*Acer palmatum*		○	○
カエデ科	ウリハダカエデ	*Acer rufinerve*	○	○	○
トチノキ科	トチノキ	*Aesculus turbinata*			○
ミツバウツギ科	ミツバウツギ	*Staphylea bumalda*		○	○
ブドウ科	ノブドウ	*Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla*		○	○
ブドウ科	ヤマブドウ	*Vitis coignetiae*		○	
トウダイグサ科	ナツトウダイ	*Euphorbia sieboldiana*		○	
モチノキ科	ハイイヌツゲ	*Ilex crenata* var. *paludosa*		○	
モチノキ科	アオハダ	*Ilex macropoda*		○	○
ニシキギ科	コマユミ	*Euonymus alatus f. striatus*		○	
ニシキギ科	ツリバナ	*Euonymus oxyphyllus*		○	
ビャクダン科	ツクバネ	*Buckleya lanceolata*		○	
ミズキ科	ヤマボウシ	*Benthamidia japonica*		○	
ミズキ科	ミズキ	*Swida controversa*	○	○	○
マメ科	ヌスビトハギ	*Desmodium podocarpum* subsp. *oxyphyllum*		○	○
マメ科	ヤマハギ	*Lespedeza bicolor*	○		
マメ科	フジ	*Wisteria floribunda*		○	○
バラ科	キンミズヒキ	*Agrimonia pilosa* var. *japonica*	○		○
バラ科	ヘビイチゴ	*Duchesnea chrysantha*			○
バラ科	ダイコンソウ	*Geum japonicum*			○
バラ科	ズミ	*Malus toringo*		○	
バラ科	ヒメヘビイチゴ	*Potentilla centigrana*	○		○

バラ科	ミツバツチグリ	*Potentilla freyniana*		○	○	○
バラ科	カマツカ	*Pourthiaea vilosa* var. *laevis*			○	○
バラ科	ウワミズザクラ	*Prunus grayana*			○	○
バラ科	カスミザクラ	*Prunus verecunda*			○	
バラ科	ノイバラ	*Rosa multiflora*			○	○
バラ科	クマイチゴ	*Rubus crataegifolius*		○		
バラ科	モミジイチゴ	*Rubus palmatus* var. *coptophyllus*		○	○	○
バラ科	ナワシロイチゴ	*Rubus parvifolius*		○		
ユキノシタ科	トリアシショウマ	*Astilbe thunbergii* var. *congesta*			○	○
ユキノシタ科	アカショウマ	*Astilbe thunbergii* var. *thunbergii*			○	
アジサイ科	ノリウツギ	*Hydrangea paniculata*			○	
アジサイ科	ツルアジサイ	*Hydrangea petiolaris*			○	
アジサイ科	イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides*			○	
サクラソウ科	コナスビ	*Lysimachia japonica*				○
ハイノキ科	サワフタギ	*Symplocos chinensis* var. *leucocarpa f. pilosa*			○	
エゴノキ科	エゴノキ	*Styrax japonica*		○	○	○
エゴノキ科	ハクウンボク	*Styrax obassia*			○	
イワウメ科	イワカガミ	*Schizocodon soldanelloides*			○	
ツツジ科	レンゲツツジ	*Rhododendron japonicum*			○	
ツツジ科	ヤマツツジ	*Rhododendron obtusum* var. *kaempferi*			○	
ツツジ科	ナツハゼ	*Vaccinium oldhamii*			○	
リョウブ科	リョウブ	*Clethra barbinervis*			○	
アブラナ科	タネツケバナ	*Cardamine flexuosa*		○		○
アブラナ科	ユリワサビ	*Wasabia tenuis*				○
スミレ科	タチツボスミレ	*Viola grypoceras*		○	○	○
スミレ科	スミレサイシン	*Viola vaginata*			○	
スミレ科	ツボスミレ	*Viola verecunda*		○		○
スミレ科	マキノスミレ	*Viola violacea* var. *makinoi*			○	
キブシ科	キブシ	*Stachyurus praecox*			○	
マタタビ科	サルナシ	*Actinidia arguta*		○	○	○
マタタビ科	マタタビ	*Actinidia polygama*				○
タデ科	ミズヒキ	*Antenoron filiforme*		○		○
タデ科	アキノウナギツカミ	*Persicaria sieboldii*				○
タデ科	ミゾソバ	*Persicaria thunbergii*				○
タデ科	イタドリ	*Reynoutria japonica*		○	○	○
タデ科	スイバ	*Rumex acetosa*		○		○
タデ科	ギシギシ	*Rumex japonicus*		○		
ナデシコ科	ミミナグサ	*Cerastium holosteides* var. *hallaisanense*		○		○
ナデシコ科	コハコベ	*Stellaria media*	x	○		○
カバノキ科	クマシデ	*Carpinus japonica*			○	
カバノキ科	ツノハシバミ	*Corylus sieboldiana*			○	
ブナ科	クリ	*Castanea crenata*		○	○	
ブナ科	ミズナラ	*Quercus cuspidata*			○	
ブナ科	コナラ	*Quercus serrata*			○	○
クルミ科	オニグルミ	*Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*			○	
イラクサ科	アカソ	*Boehmeria tricuspis*		○		○
イラクサ科	ウワバミソウ	*Elatostema umbellatum* var. *majus*				○
クワ科	ヒメコウゾ	*Broussonetia kazinoki*				○
クワ科	ヤマグワ	*Morus australis*			○	○
アサ科	カラハナソウ	*Humulus lupulus* var. *cordifolius*		○		○
ケマンソウ科	ムラサキケマン	*Corydalis incisa*		○		

アケビ科	ミツバアケビ	*Akebia trifoliata*		○	○	○
メギ科	メギ	*Berberis thunbergii*			○	
キンポウゲ科	ボタンヅル	*Clematis apiifolia*		○		○
ドクダミ科	ドクダミ	*Houttuynia cordata*		○		○
センリョウ科	ヒトリシズカ	*Chloranthus japonicus*				○
センリョウ科	フタリシズカ	*Chloranthus serratus*				○
クスノキ科	クロモジ	*Lindera umbellata*			○	○
クスノキ科	オオバクロモジ	*Lindera umbellata var. mambranacea*			○	○
モクレン科	ホオノキ	*Magnolia obovata*			○	
モクレン科	コブシ	*Magnolia praecoccisima*			○	
ラン科	ナツエビネ	*Calanthe reflexa*			○	
ラン科	ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtedaliana*			○	
ヤマノイモ科	オニドコロ	*Dioscorea tokoro*			○	○
サルトリイバラ科	サルトリイバラ	*Smilax china*			○	○
サルトリイバラ科	シオデ	*Smilax riparia var. ussuriensis*			○	
ユリ科	ウバユリ	*Cardiocrinum cordatum*				○
ユリ科	チゴユリ	*Disporum smilacinum*		○	○	
ユリ科	コバギボウシ	*Hosta albo-marginata*				○
ユリ科	オオバギボウシ	*Hosta sieboldiana*			○	
ユリ科	ヤマユリ	*Lilium auratum*		○		
ユリ科	ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum*				○
ユリ科	バイケイソウ	*Veratrum album subsp. oxysepalum*			○	
ユリ科	コバイケイソウ	*Veratrum stamineum*			○	
イネ科	チヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius*			○	○
イネ科	オオアワガエリ	*Phleum pratense*	x	○		
イネ科	チシマザサ	*Sasa kurilensis*				○
イネ科	クマイザサ	*Sasa senanensis*		○	○	○
カヤツリグサ科	シラスゲ	*Carex doniana*				○
カヤツリグサ科	ヒメシラスゲ	*Carex mollicula*				○
カヤツリグサ科	タガネソウ	*Carex siderosticta*			○	
ツユクサ科	ツユクサ	*Commelina communis*				○
サトイモ科	マムシグサ	*Arisaema serratum*			○	
スギ科	スギ	*Cryptomeria japonica*			○	
トクサ科	スギナ	*Equisetum arvense*				○
トクサ科	イヌスギナ	*Equisetum palustre*				○
ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	*Botrychium ternatum*				○
ハナヤスリ科	ナツノハナワラビ	*Botrychium virginianum*				○
ゼンマイ科	ゼンマイ	*Osmunda japonica*			○	○
コバノイシカグマ科	ワラビ	*Pteridium aquilinum var. latiusculum*		○	○	○
シシガシラ科	シシガシラ	*Blechnum niponicum*			○	○
オシダ科	ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*				○
オシダ科	サカゲイノデ	*Polystichum retroso-paleaceum*				○
オシダ科	ジュウモンジシダ	*Polystichum tripteron*				○
イワデンダ科	イヌワラビ	*Athyrium niponicum*				○